

本佐倉城(鹿島城)(国の史跡, 続百名城)(印旛郡酒々井町本佐倉字城ノ内)

本佐倉城（もとさくらじょう）は、千葉県印旛郡酒々井町本佐倉と佐倉市大佐倉にまたがる将門山に築かれた千葉氏後期の本拠地となった日本の城。文明年間（1469 年-1486 年）の築城で、国の史跡に指定されている。

2017 年（平成 29 年）4 月 6 日、続日本 100 名城（121 番）に選定された。

歴史

室町時代後期に千葉宗家を倒して家督を奪った馬加氏（まくわりし）は、将軍足利義政の命により千葉実胤と自胤を支援した東常縁に討たれ滅亡した。また太田道灌も実胤・自胤を支援し江戸城を築城するなどした。だが、馬加康胤の子（異説あり）・千葉輔胤は、古河公方足利成氏と結んで下総国を平定したことで宗家の地位を確保し、文明年間に従来の亥鼻城よりも内陸のこの地に城を築いて本拠地を移した（なお、文明 11 年（1479 年）に太田道灌が千葉輔胤を攻めたときに追い詰められた輔胤の籠城先が臼井城であったことから、この時点ではまだ本佐倉城は完成していなかったと推定されている）。

その後、9 代にわたって戦国大名千葉氏宗家の本拠地となったが、天正 18 年（1590 年）、千葉氏が小田原征伐後に改易されると、徳川氏に接收されて一旦は破却され、代わりに城下に陣屋が設置された。慶長 7 年（1602 年）12 月に 5 万石で松平忠輝が封じられるが、ひと月余後の慶長 8 年（1603 年）2 月、信濃国川中島に移封された。慶長 15 年（1610 年）、軍事上の必要から同地に封じられた小笠原吉次、土井利勝が再び本佐倉城に入って佐倉藩の藩庁が置かれた。

元和元年（1615 年）、藩庁の佐倉城への移転と一国一城制により廃城となった。なお、本佐倉の城下町は酒々井宿に移設されて成田街道の宿場町になったと考えられている。

城の構造

城域は内郭と外郭に分かれており、内郭は南方に谷が刻まれた半島状の丘陵上に占地し、往時は三方を湿地帯で囲まれた要害であった。一方の外郭は内郭から繋がる丘陵上を自然地形と空堀で分断した広大な地積を持ち、千葉氏の勢力が伸張したのち、家臣団の屋敷地として整備されたと考えられる。

史跡指定

在でも城の土塁や空堀などの遺構がほぼ完全な姿で遺存しており、1998 年（平成 10 年）9 月 11 日に「本佐倉城跡」として国の史跡に指定された。これは、千葉県の城郭では唯一の指定である。

Wikipedia による



本佐倉城模擬矢立

